

三陸鉄道車両への広葉樹吊り手モニタリング調査について

はじめに

本年度、宮古林務室では地域の広葉樹資源の利用促進を目的に、広葉樹製材で製作した吊り手を三陸鉄道の車両内に設置し、県内外の鉄道利用者を対象にモニタリング調査を行ったので報告します。

1 広葉樹の吊り手の製作（写真1）

吊り手はクリ、ナラ、カツラ、ホオノキ、ハリギリを材料に以下のとおり製作しました。

- ① 宮古市内の製材所で厚さ15mm、幅115mm、長さ2mの挽き板に製材・人工乾燥。
- ② 県南の工場で挽き板を幅はぎおよび直交積層接着して3層クロスパネルに加工。
- ③ 県南の工場で3層クロスパネルを南部鼻曲がり鮭型とラグビーボール型に切削。
- ④ 宮古市内の工場で研磨・難燃処理・塗装・文字入れして仕上げ。

2 モニタリング調査（写真2）

三陸鉄道株式会社の協力を得て、鉄道車両5両に60個の吊り手を取り付けました。

吊り手は、数ヶ月間使用していただき、その後利用者を対象として広葉樹利用に関するアンケート調査を行いました。

3 アンケート調査結果

アンケートへの回答数は34名、男女比は6:4、年代は10代～70代、居住先は県内外と、幅広い利用者から調査をすることができました。

鉄道車両内への広葉樹吊り手の使用は、回答者の7割が肯定的な意見で、具体的には触れた時の木の温かみ、ユニークなデザインに好感を持たれていました。

また、回答者の7割が、5種類の樹種の中でクリとナラを気に入っており、材色は落ち着いた色、木目は明瞭であるほうが、製品として好まれる傾向にありました。

さらに、回答者の9割が広葉樹製品を使用したいと回答しており、今回の取組が広葉樹利用促進のPRに有効と思われました。

4 今後の取組について

宮古林務室では平成31年度の取組として、今回製造した広葉樹クロスパネルについて、首都圏等でのオフィス家具に活用するための勉強会を行う予定としており、広葉樹資源の利用促進のための取組を推進します。



樹種：クリ（南部鼻曲がり鮭型）



樹種：カツラ（ラグビーボール型）

写真1 広葉樹で製作した吊り手



写真2 三陸鉄道車両内への取り付け